

[研究会報告]

世界と日本の小児 COVID-19 の状況

高橋 謙造

帝京大学大学院公衆衛生学研究科

要 旨

2019 年の 11 月に中華人民共和国湖北省武漢市において最初の症例が報告された急性呼吸器疾患 (COVID-19) は、新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) が原因であると明らかになるまでに、感染が拡大した。現在では、国境を超えてさらに感染が拡大している。COVID-19 には特異な臨床像があり、長い潜伏期間 (平均して 5-6 日間)、高齢者で多い重症者、死亡者 (重症の肺炎がほぼ必発) に加え、有効なワクチン、治療薬ともに十分ではない (2020.8.30 時点) 状況が保健医療全体に負担を課している。今回の学会においては、世界と日本の小児の COVID-19 感染の状況を全体に概観し、さらに、日本においても行われた学校閉鎖に、マスク装着等に関する最新知見、2020 年 8 月段階で新たな見直しがされつつある BCG に関する最新知見、COVID-19 に特徴的であると考えられている川崎病様の所見等について概説する。